



発行日 2012年4月6日 発行人 細川正善

編集責任者 廣澤道秀 編集担当 佐藤慧真

発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3 貞昌院内

Tel. 045-843-8852 Fax. 045-843-8864 URL: <http://www.soto-zen.net/>

郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

Vol.49

2012年度総会・講演会特集号



2012年度総会・講演会 集合写真

巻 頭

Soto Mission of Hawaii (ハワイ別院正法寺)
100周年を迎えるにあたり

ハワイ国際布教総監 駒形宗彦



2013年秋、曹洞宗両大本山ハワイ別院正法寺は創立百周年記念を迎えます。一口に百年ということとは造作もないことですが、数多

くの先達の苦勞と努力が実ったからこそ、この記念すべき慶事を迎えることが出来るのです。この記念の年にあたり「報恩」の心と、新たに将来に即応すべき研究と対策に力を入れていく所存です。

別院正法寺では一仏両祖を柱として、布教活動の中心を『修証義』に基づくものとして、ホノルルでの開教を踏み出しました。当地は現在すでに3世から4世、5世の時代に移り変わり、多文化の社会となり、言語は完全に英語化されました。メンバーのお寺に対する意識と理解と期待感は、今までよりいっそう高まりつつあります。

昔は耕地に於いても町に於いてもお寺は信仰と教育、そして社交面においても日系人の憩いの場でもありまし

た。又、情報交換の場でもありました。しかし近年は、3世4世の檀信徒に、お寺のイメージをただ単に過去の習慣を通してなじんだ懐かしい処というより、精神的に心の糧、またスピリチュアル・エネルギーを求める場として捉える人たちが目立ってきました。お寺は「心の安らぎ」を求める処、つまり、「乳母車から棺桶まで」関わってくれる処、檀信徒、コミュニティにとり重要な場所として受け止められています。お寺が地域社会に定着し根を下ろすことは、お寺と僧侶がコミュニティと密接な関係を保ち「なくてはならぬ存在」になるということです。

ハワイに於けるこれらのお寺にとって、いかにして適切な人材を育成し、将来に向けチャレンジしていくかということが第一です。そして、常に移り変わっていくローカル・コミュニティに向け、いかに布教の役割、サービス、プログラム、アクティビティを展開していくかが大きな課題となっています。

特集 2012年度総会・講演会報告

SOTO禅インターナショナル2012年度総会報告

2012年度「SOTO禅インターナショナル（以下SZI）」総会・講演会が2月16日（木）曹洞宗檀信徒会館3階桜の間に於いて開催されました。

総会に先立ち、国際布教関連示寂者ならびに東日本大震災被災物故者追悼法要を導師細川会長にて厳修し、そのあと1分間の椅子坐禅を行いました。

【総会議事】

細川会長による開会挨拶では、先年の東日本大震災における御見舞の言葉をはじめとして、「現在継続して行われている『曹洞宗海外日系寺院史』編纂事業、国際布教への御支援協力」を本年も引き続き賜りたい、と述べられました。

教化部長釜田隆文老師による来賓挨拶においては、SZIが宗務庁への東日本大震災義捐金をいち早く寄託したことに対して大変迅速であったと触れられました。先年10月の曹洞宗国際センター主催の国際シンポジウムが200人超の参加者を数え盛況に終わったこと、老師が11月には天平山プロジェクト発足式に参加して候補地を視察されたこと、会のますますの発展を望む旨のお言葉をいただきました。

【議事】

議長に加藤孝正師を選出し、議事進行をしていただきました。まず、2011年度事業内容について、亀野事務局長から説明がありました。熊本県・聖護寺国際安居通訳派遣が2011年に終了すること、植林支援プロジェクトが2012年3月に2期目の入金を予定していることが補足説明されました。続いて太田会計より2011年度の決算報告、国際布教支援金運用報告がなされ、葉貫成悟監事によって適正に予算の執行が行われた報告がありました。



釜田隆文教化部長老師にご挨拶をいただきました

引き続き亀野事務局長から2012年度事業計画案の発表があり、主催事業であった、ゆめ観音アジアフェスティバルが本年より無くなった補足説明がありました。2012年度予算案について太田会計より提出されました。ゆめ観音への事業支出が無くなった為、事業費減額となった補足説



東日本大震災被災物故者追悼法要が厳修された

明がなされました。

とくに御質問も無く、ここまでの議題が参加者の挙手をもって承認いただきました。

続いて亀野事務局長より会則改正について説明がありました。新たに第18条（解散決議規程）「総会において会員総数の4分の3以上の賛成を得た上で解散することができる」、第19条（残余財産の処分）「解散が議決された時、指名された精算人によって債権者への清算を行い、残余財産がある場合は、曹洞宗両大本山に譲渡する」が追加されることになり、参加者の挙手をもって承認いただき、会則に規定が追加されました。

その他、参加者より「総会次第にページ数の記載」の要望がありましたので、次回より反映させていただきます。

以上、全議題が滞りなく承認されましたことをご報告いたします。（詳細報告は12～13ページに記載しております。）

【講演会】

午後3時より第1部「北アメリカ天平山禅堂プロジェクト」を尖秀雄老師に御講演いただきました。午後3時20分より第2部「スティーブ・ジョブズと北アメリカの禅」を講師に前・北アメリカ国際布教総監秋葉玄吾老師、コメンテーターに中川雅雄氏をお迎えし、150名を超える満場の参加者のもと開催されました。（詳細報告は3～11ページに記載しております。）

【懇親会】

曹洞宗檀信徒会館6階「パンセ」において午後5時30分から懇親会が行われ、秋葉老師をはじめ50名もの御参加をいただきました。小笠原隆元老師に於かれましては、アメリカより成田に帰国した足で駆けつけていただきました。有意義な楽しい時間を共有することができました。御参加・御尽力いただいた皆様に感謝いたします。

（SZI事務局記）

特集 2012年度総会・講演会報告

講演会抄録

スティーブ・ジョブズと北アメリカの禅

前・北アメリカ国際布教総監 ^{あき}秋 ^ば葉 ^{げん}玄 ^ご吾

ご紹介にあずかりました国際布教師の秋葉玄吾でございます。この場でお話をさせていただきますこと、感謝申し上げます。

私は渡米してより24年になります。1987年（昭和62年）7月、カリフォルニア州のオークランドに禅グループがあり、そこに北アメリカ開教師として任命され赴任しました。私が渡米するキッカケは、実は知野（弘文）老師と関係があります。私は自分がまだ永平寺の雲水であった1981年（昭和56年）2月下旬に、8日間ほどサンフランシスコ市に滞在しております。それが初めてのアメリカでした。サンフランシスコ禅センターの摂心に1週間参加しました。その摂心に私を連れて行ってくれたのが、知野老師のお弟子さんでした。彼は永平寺で1年間修行して、アメリカへ帰国するときに私を誘ってくれました。「アメリカで摂心があるのだが、玄吾さん一緒に行きませんか」と言うので、私も「アメリカで坐禅か」と気軽な返事をしました。実は、観光にでも連れて行ってくれるのかなと思っておりました。ところが、サンフランシスコ禅センターに入ったら、1週間の間ずっと坐ったきりです。そんな摂心でした。

その折に、ロスアルトスにあった知野老師のハイク禅堂も訪ねたのでした。そこで初めて知野老師に出会いました。この時、知野老師は開教師活動14年目、43歳の脂の乗った独り立ちの布教をされていました。ガレージを改造したという板敷の禅堂で2柱坐禅をし、20人前後の、こざっぱりした感じの、30～40歳代のアメリカ人男女が坐っていました。ハイク禅堂の「ハイク」は、五七五の俳句のことです。20人前後しか坐れない小さな禅堂だったので、ハイク禅堂と名付けたのだと聞いております。この時のサンフランシスコ禅センターでの摂心参加がキッカケで、後年私は開教師として渡米することになったのです。

その年スティーブ・ジョブズ氏は26歳、すでにスティーブ・ウォズニアックら天才的なエンジニアとアップル社を起こし、若くして「ビジネスを大きく変えた男」とレビュー誌にも取り上げられる、億万長者の事業家でした。あの日のハイク禅堂に彼がいたかどうかは知る由もありません。私は一介の雲水でありましたから。

ここで、知野老師の経歴に目を通してみます。知野老師は1938年（昭和13年）、新潟県生まれ。駒澤大学を経て京都大学の哲学科修士号を取得されました。ご本人から伺ったところによると、「お釈迦様のことを歴史的にきちっと知りたい、その教えは本当にどうということなのか理解したい」ということで、本がたくさんあった京都大学を選んだということでした。指導教授は長尾雅人博士でした。そこで本を山ほど読んだということです。

「本をいくら読んでもわからない。やはり坐禅をしなければいけない」ということで、その後、永平寺で2年間修行されました。永平寺には摂心の時に独参というものがあります。当時、故宮崎禅師が後堂老師でした。「その独参の時に、初めて自分の頭の中が溶けていくような感動を覚え、涙を流した」とおっしゃっております。後年、宮崎禅師は「北アメリカに知野というのがいるが、元気にしているか」とよく私に尋ねられました。

そして、サンフランシスコ禅センターを開かれた鈴木俊隆老師の招聘に応じ、知野老師は1967年（昭和42年）北アメリカ開教師として渡米、サンフランシスコ禅センター、タサハラなどで、僧堂生活の様々なことを初期のアメリカの曹洞禅の修行者に指導されました。ハイク禅堂、サンタクルーズ禅堂などへも鈴木老師の指示で出向いていました。2年程して知野老師は帰国しましたが、知野老師の人柄に惹かれたメンバー達が、知野老師のお師匠さんに手紙を書き、「知野老師をハイク禅堂に送り出して欲しい」と訴えたのです。お師匠さんは知野老師に「お前行きたいか」と聞いたそうです。「はい、行ってみたいです」と答えると、お師匠さんは「適材適所だな」と言い、アメリカ行きを許されたそうです。奥さんも隣で「お寺に住職は二人もいない。いってらっしゃい」と言って送り出してくれたと述懐しております。1970年（昭和45年）2月、知野老師はロスアルトスの禅堂に赴任されました。

その後、1980年（昭和55年）サンタクルーズ山脈の山中に慈光寺を創設、1984年（昭和59年）にはニューメキシコ北部、ロッキー山脈内の山地に鳳光寺を開創され、多くのメンバー、修行者を育てたのでした。また、チベット仏教のリンポチュェがコロラド州の山中に、チベット仏教研究所としてナロパ大学を設立する手助けなどをして、そこで禅仏教、書道などの手引きなども行っていました。

弟子や信者はヨーロッパにもいて、2002年（平成14年）スイスの山中の弟子の処にバケーションで訪ね、休養中、遷化されました。遷化から1ヵ月程して、サンタクルーズ山脈の山中にある閑静な慈光寺で、知野老師の葬儀が執り行われました。式は泉の湧く池の畔で、かつて知野老師がゆっくりと歩いたであろう、その場所で挙行されました。私は北アメリカ総監の役職中でもあり、その乗炬を勤めさせていただきました。アメリカで初めて会った開教師が知野老師であり、後年、その葬儀の乗炬を取るとは夢にも思いませんでした。不思議な縁だと感慨深いものがありました。その葬儀にスティーブ・ジョブズの奥さんが参列していたのを知ったのは数年後のことでした。

ここで、アメリカにおいて曹洞禅がどのように展開していったのか、その歴史を垣間見たいと思います。北アメリカでの布教はさかのぼること90年になりますが、禅ブームが起こったのは1960年代になります。この頃のアメリカは「混迷の60年代」と呼ばれています。冷戦構造から生まれたベトナム戦争の狂気は若い人を蝕みました。世界の富を一國に集めたような繁栄、偽善的な価値観、空虚さなどを忌避し、革新的な生活スタイル、精神文化を創造しようともがく若い世代、ビートジェネレーションと呼ばれる一群が産まれました。ヒッピームーブメントなども起こりました。それまでも鈴木大拙師の著作などで禅は知られてはおりました。そしてこの時代、カリフォルニア大学バークレー校で東洋哲学の講座をもっていたアラン・ワッツが「禅」を講義していたこともあり、特にカウンターカルチャーに興味を持つ人達に、禅メディテーションは広まっていきました。禅の公案に登場する禅者たちの反権威主義的な自由さ、孤高、高潔、ラジカル、独立独歩、生き生きとした生き様、意外さ、直感的鋭さ、単純な生活、簡潔明快な言葉など、ビート・ヒッピーの若者達の創造性を刺激したのでしょう。一大禅ブームが起こりました。いわゆるビート禅です。詩人のゲラリー・スナイダーは道元禅師の『山水経』の巻を読み、「道元はエコロジストだ、自然の働きに対して深く際だった洞察を有していた1人の思想家としてみることもできる」と敬服しています。

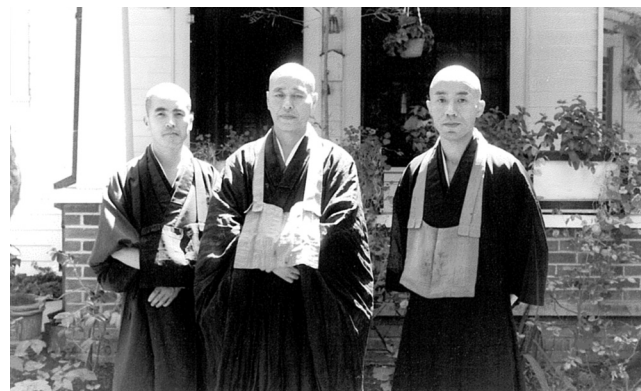
1956年（昭和31年）前角博雄師が禅宗寺へ、1959年（昭和34年）56歳であった鈴木俊隆師が桑港寺に赴任し、参禅活動が行われるようになりました。1960年（昭和35年）には山田霊林師が第5代開教総監として禅宗寺に着かれました。山田総監は後に、永平寺七十五世貫首となられております。山田総監は着任後すぐ「禅仏教昂揚研修所」を設立、曹洞宗の只管打坐、修証一如の禅の布教を展開する方針を定めました。日本から若い

開教師を所員として招聘しており、その中に片桐大忍老師もおりました。当時、「日系寺院で坐禅会を開き、白人の参禅者が寺に出入りする」という状態は日系一世メンバーには心よくない光景と映りました。戦中戦後の日系人は、大変つらい社会状況の中にありましたので、「お寺は同朋の人達が集いくつろぐ、唯一の場所」であったからです。しかし、アメリカ社会の中にある寺という条件を考慮に入れ、日系人の将来を見据えたとき、アメリカ人一般がメンバーに加わるほうが寺院の維持のために有益であり、禅の布教にとっても重要であるとの判断だったと思います。

当時は道元禅師、瑩山禅師の著作の翻訳もほとんどなく、その教えを紹介するために大変な努力を開教師は払いました。開教師は自分の修行を通して曹洞禅の教えの実例を示さなければなりません。開教師は日常的に行じる坐禅を在家信者にも解放し、講義、提唱、作務、学習、そして摂心を含む厳格な修行の仕方を確立していきました。僧侶も陸続と生まれました。

70年代は禅センターが活動的に力強く拡大していきます。開教師の弟子たちが各地に禅センターを築き、何千人もの修行者がアメリカの禅文化に参加し、語録、經典の翻訳、偈文翻訳、袈裟、絛子、作務衣、着物など衣類の縫い方、進退、所作、鳴らし物などの習得が進んだのです。現在、北アメリカには約400人の僧侶、250以上の禅センターがあり、アメリカの曹洞禅が形成されつつある状況に至っています。仏教がもつ宇宙観、世界観の豊穡さ、深さ、宇宙にあるありとあらゆるものとの一体感、個物への限らない慈悲の念、それら仏教の精華がアメリカ人への心の糧として広まっていると思います。

さて、話をスティーブ・ジョブズ氏に移します。ジョブズ氏は1955年（昭和30年）2月24日に生まれていますが、両親は学生であり、特に母親の親の反対もあったため、生まれるとすぐに養子に出されました。ジョブズ氏は後年まで、「捨てられた、選ばれた、特別な」という意識を持っていました。養子先で隣の女の子と遊んでい



一番右が知野弘文老師

て、「お父さんお母さんは、あなたを必要としなかったのね」と言われ、衝撃を受け、泣いて家に帰り、お父さんお母さんに「僕はどういう子なの」と聞きました。両親に「お前は、私達を選んだんだよ。私達にとって、特別な子どもなんだよ」と何度も言われて、気が収まったということもありました。そのため、20歳前後の悩み多き青年時に、そのような思いが吹き出してきて、放浪するという事になったようです。

高校に入って、ジョブズ青年は60年代の影響を受け、マリファナやLSDとかカウンターカルチャー系のトリップに興味を抱きました。そして、同じ高校出身の5歳先輩の天才的な「電気少年」、後にアップルIを作り出す、スティーブ・ウオズニアクと知り合いました。2人のスティーブは性格が反対で、一方は激しく、外へ向かい、一方は静かで、内に向かう性格でした。

1972年（昭和47年）スティーブ・ジョブズは17歳、オレゴン州にあるリード大学に入りました。自由を重んじる校風とヒッピー的なライフスタイルで知られている大学でした。ジョブズは大学に入って、精神世界、悟りに関する様々な本、パパ・ラムダスの『ビー・ヒア・ナウ』、鈴木俊隆師の『禅マインド、ビギナーズマインド』、リチャード・モーリス・バックの『宇宙意識』など、当時ヒッピーの聖書といわれたものを図書館に通い読んでいました。もうひとつ、フランシス・ムア・ラッペの『小さな惑星の緑の食卓…現代人のライフスタイルを変える新食物読本』という本が、大学1年生のジョブズに大きすぎる影響を与えました。とにかくこの頃、菜食主義に禅、坐禅にスピリチュアリティ、LSDにロック…当時の大学キャンパスで流行っていた悟性を求めるサブカルチャーの象徴となっていた様々なものが、ジョブズの中で一つに混じり合っていたのです。

ジョブズは、「両親が一生かけて貯めたお金」を学費で費い、おもしろくもない講義を受けるのが嫌だったと、18ヵ月大学で過ごした後、1974年（昭和49年）2月、ロスアルトスの実家に戻ります。18歳でした。そして、インド放浪へ出ます。「僕にとっては真剣な探求の旅だった。ぼくは悟りという考え方に心酔し、自分はどういう人間なのか、何をすべきなのか、知りたいと思ったんだ」と彼は目的を語っています。インド放浪により、東洋の自己と西洋の自己とは違うところがあると自覚しました。しかし、インドを放浪して、赤痢になったり、金欠になったり、苦行、質素を体験しても、悟りも師も見いだせなかった。7ヵ月インドの田舎を放浪し、ロスアルトスに戻っています。19歳という多感な青年スティーブは、人間的に成長しようともがき、自分が養子に出されたこと、生みの親を知らない、心の痛みを抱え、自分は何者なのか、と自分探しを続けます。そして、禅に大きな影響を

受けるようになり、永平寺に行こうと考えたこともありましたが、しかし、こちらにとどまれと師に言われてやめたそうです。「ここにはないものは向こうにもないから」、と。

実際、師はすぐ近くにいたのです。ロスアルトスのハイク禅堂ではほえんでいる知野弘文老師でした。ジョブズは正師に出合ったのです。1975年（昭和50年）、ジョブズ19歳、知野老師37歳の邂逅でありました。知野老師はハイク禅堂の開教師として5年目に入り、盛んな活動を展開している時期でした。ハイク禅堂の勤めの他、サンフランシスコ禅センター、タサハラをサポート、スタンフォード大学やカリフォルニア州立大学サンタクルーズ校社会人コースでの禅仏教講演、各地の禅グループへの指導など、禅僧として充実した活動期に入っていました。ジョブズは知野老師に出会い熱心に曹洞禅を学んでいくようになり、「弘文老師との出会いに深く感動し、気がついたら、なるべく長い時間を彼と過ごすようになっていた」と述べています。私はジョブズのこの言葉に知野老師の面目躍如たる家風があると感じ取ります。多くを語らず、柔和に人を包み込んでいく慈愛、知野老師の特性のひとつです。そしてジョブズは、「老師にはスタンフォード大学で看護婦をしている奥さんとふたりの子どもがいてね。奥さんは夜勤だったので、僕はいつも夕方から師のところへ行ってたな。で夜中に帰ってきた奥さんに追い出されるわけさ」と、語っています。

ジョブズは心を開いて知野老師と接し、個人的な苦しみについて語ったこともあったでしょう。曹洞禅の正しい修行とは何か、正しい坐禅とは何か、悟りとは何か、そして、修行そのものが悟りなのだ、悟りは自己の内にある、自己は即ち仏性なのだ、坐禅の姿が悟りなのだ、といった曹洞禅の特徴を知っていき、心に納得する安心を得ていったでしょう。ジョブズ氏は「出家の相談もしたが、弘文老師からは、事業の世界で仕事をしつつ、スピリチュアルな世界とつながりを保つことは可能なことから、出家はやめたほうがよい」と諭されています。

ジョブズのリード大学時代の時の友人もハイク禅堂に通っていました。その友人も、弘文老師はおもしろい人物だったと言っています。「彼の英語はひどいものでした。俳句みたいに詩的で、何かを暗示するような言葉を断片的に話すのです。そのため、坐って話を聞いていても、半分ぐらい何を言っているのか判りませんでした。それでも結構楽しんでいました。」というように評しています。

開教師は経典や語録をかみくだいて、英語で話す、大変な労苦を背負っています。まして、仏教については白紙の人々です。こちらが当たり前と思うことも、先方はチンプンカンプンというのはしょっちゅうあります。知野老師も密かに悪戦苦闘されたのだと思います。また別の友

人は、当時のハイク禅堂をこう振り返っています。「みんな弘文老師の坐禅会に行きました。私たちは坐蒲に坐り、上座に老師が坐っていました。あそこでは、心を乱すものを締め出す方法を学びました。とても不思議な経験でした。雨が降っていた日には、そういう環境音を利用して、坐禅に集中する方法なども教えて貰いました」と、様々の人がハイク禅堂で坐禅をし、知野老師のユーモア、優しさ、真面目さ、誠実さに触れ、曹洞禅の教えを学んだのです。

ジョブズは、知野老師がタサハラ禅マウンテンセンターで指導するときは、参加するようになりました。タサハラは山間深い谷間の底にあり、川が流れ、温泉も湧く、絶好の場所にある道場です。若いジョブズは他の参禅者にまじり、坐禅や作務に励んだことでしょう。ジョブズは僧堂生活の合理的な規則性、簡潔な日常性こそ、仏の道だと気付いたのではないかと思います。知野老師とジョブズの関係は、その後も深く長く続き、17年後（知野老師54歳、ジョブズ36歳）には、ヨセミテで行われたジョブズの結婚式を知野老師が執り行いました。

1976年（昭和51年）ジョブズとウオズニアクは「アップル」を立ち上げ、パーソナルコンピュータという産業を興していった。この歴史的偉業はウオズニアクの業績であり、ウオズニアクのマシンを中心に会社を興したのはジョブズです。ウオズニアクは生みの母、ジョブズは会社を興した父といえます。この関係は、ソニーの井深大氏と盛田昭夫氏の関係に似ていると思います。この後、アップルは一躍時代の先端をいく会社として注目を集めました。

アメリカの禅の実践者のひとつの特徴として、禅仏教への取り組み方も、現代の総合的な知の刃を振るい、禅の思想を解剖し、取れるものはとって生かし、実践していこうということがあります。仏教の教えを禅はどう実践していくのか、自己の身の上にどう実現していくのか、それを重視します。が、この仏の道を、現実の日常生活上、実際に歩むということが、意外と難題なのです。身と口と心に三法印を仏の印を標して、仏の道を現成して



生きる、それが個々人の最大の課題であります。スティーブ・ジョブズ氏は、新しい億烈なコンピュータビジネス社会にあって、仏道という大道を堂々と歩んだ人と呼んでもよいのではないかと思います。

このお話を閉じるにあたって、知野老師とスティーブ・ジョブズ氏の鎮魂のメモリーのために次のエピソードを献げたいと思います。「非思量の坐禅」といった薬山禅師のエピソードです。誰でもが非思量の自己ですので、誰もがたとえ一時の坐禅の姿になれば、それは非思量以外の坐禅ではあり得ないのです。このエピソードは、普段、日常、行住坐臥そのまが非思量であることを示した話です。

寺の事務長が、久しく説法台に登らないでいた薬山禅師に聞いた。「修行者たちは禅師様のご法話を心待ちにしております。ひとつ、ご法話をして下されませんか」。薬山禅師は「判った、修行僧を集める鐘を打ちなさい」と承諾した。修行僧は、「おお、禅師様のお話が聞ける」と期待して集まった。禅師は修行僧が待っている講堂に現れ、説法台に登った。暫く黙ったまま坐っていた。そして、一言も発せず台を降り、方丈の間に帰ってしまった。事務長はあわてて禅師を追い、方丈の間に聞いた。「先刻は修行者たちのために説法しようとおっしゃいましたが、何故、一言もお話にならなかったのですか」。禅師は答えた。「お経を解説、研究する学者もいる。仏教倫理を解釈し論ずる研究家もいる。説法は彼らに任せられる。わしは、この通りだ」。

『従容録』からの一段です。薬山古仏は、自己をとりまく生命あるもの、無機物すべての形あるものの説法を聞く耳をもち、眼を持ち、眉毛を備えておられたのでしょうか。「休迹なる悟迹を長長出ならしめた」（『そこ』を大きく脱け出していった）全き個の自己が環境とともに生活をされていたのでしょうか。知野老師もジョブズ氏も、尽十方世界での明珠となって今も坐禅をされていることでしょう。

最後に、この場をお借りして、曹洞宗の海外布教に精魂を尽くされた先人開教師、元開教師のご尊師に感謝の誠を捧げたいと存じます。また、海外布教に多大の関心を寄せられ、法愛を注がれ、ご支援を下された各ご尊宿方へ、心よりお礼を申し上げます。今後とも皆様の、海外布教へ対するご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。以上で、お話を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

対談「スティーブ・ジョブズと北アメリカの禅」

【田宮】

壇上には秋葉老師と中川氏（講演会資料P 18を参照）をお迎えしております。

知野老師は乙川姓でしたが、養子に入られ、知野姓となり、その後また乙川姓に戻っています。また、アメリカでは弟子たちから「Kohbun」と呼ばれていました。

それではまずは、スタンフォード大学での講演をご覧ください。

<講演のビデオが映し出される>（講演会資料P 2～7を参照）



スタンフォード大学でのジョブズ氏のスピーチの様子が紹介されました



満員の聴衆がジョブズ氏のスピーチに聴き入っています

…ご覧いただいた講演のビデオはユーチューブで1,373万回以上再生されています。

この講演の背景には、禅の教えがあるということの一例を、資料としてお手元にまとめさせていただきました（講演会資料P 8～10参照）。

【細川】

先ほど秋葉師の講演にもありました通り、スティーブ・ジョブズ氏と知野老師、禅の関係は深いと感じます。

私は開教師として北米、サンフランシスコ桑港寺に1978年から19年赴任していました。鈴木老師は既に居られませんが、その後片桐老師、前角老師、知野老師が赴

任しておりました。

戦前の日系寺院は中国、台湾、樺太等々も含めてハワイ、ブラジル、アメリカと、日本人社会と共に歩んできました。

戦後は、今日の講演の中でもありましたが、アメリカの禅がどのように展開していったということについて、各老師方によって生みだされ、アメリカの文化の中で芽生えていった時期、そして現在の時期と3つに分けて考えることができると思います。

祖録との検証については道元禅師の直接のお弟子さんたちによる『正法眼蔵随聞記』の中から、このようなことが背景にあるのだらうという箇所を抜き出して講演資料としてまとめています。

ディスカッションの中で示されたいと思います。

【田宮】

スティーブ・ジョブズ氏が、自ら設立したアップルを追われるという時期があるのですが、講演の中では、それが、また再び初心に帰る素晴らしい機会であったと述べられています。アメリカの禅社会は鈴木俊隆老師の『ゼンマインド・ビギナーズマインド』がバイブルのように大切にされています。まさに初心、ビギナーズマインドには無限の可能性がある、エキスパートの心にはそれが無い。それがジョブズ氏にとっては再出発に大きな影響を与え無限の可能性が生み出されたのかな、と思います。

【秋葉】

ジョブズ氏は、26歳で立ち上げたアップルを31～32歳で追放されました。禅だとか仏教だとかは、タサハラへ行ったり知野さんのところへ行ったりして学んでいますけど、彼の性格は全然変わらなかった。人を平気で罵倒しました。

夢中になって、最高のものを求める、人が使えるもの新しいものを想像することに集中する人だった。だから、まづいアイデアには平気で罵倒した。ある意味禅的ともいえますが、だから追い出されることになったのでしょうか。

追い出されることによって、ハイク禅堂やタサハラに通う時間ができ、それが心をリフレッシュする機会だったはずです。自分の精神的未熟さも振り返ることができたのではないだろうか。

ジョブズ氏は人を使ったり、会社をきちんとやっていくことに関しては成長したのだと思います。

ジョブズ氏の言葉一つひとつが、どの禅の語録にあたるかは、本当かどうかはわからないし、無理にすることは無いだろうけれども、たとえば、講演の中で、死を前にして、よく禅では死を背追っていきなさい、死を背負うことが一番強い、そういうことを彼は自然に身につけていったのではないかと思います。

ハイク禅堂やタサハラで仏教に触れたというのは、ジョブズ氏だけが特別に知野氏と交流があったということではなく、他のメンバーと一緒にお経を読んだり作務をしたり、そういうことは実直に行っていました。

ジョブズ氏に直接接した人に聞くと、非常に静かでおとな



対談される秋葉玄吾老師と中川雅雄氏

しい、余計なことは言わない、そういう人だといわれます。

【田宮】

私も一度、イタリア料理屋で弘文師と食事をしていた時にジョブズ氏が現れ、弘文師に挨拶されていました。そのときはごく普通の紳士的な人だなという印象を受けました。

【中川】

私は1985年、彼がアップル社をクーデターで辞めさせられるまで、3つのフェーズで彼と接点がありました。

一つは1978年、渡米した当時TRS-80とコモドールPET2001、そしてApple IIという3つのPCがありました。その時代はパーソナルコンピュータではなく、マイコンでした。その中で、アップルは凄いな、と思い購入しました。

初期の機械だったので、当時小さな会社だったアップル社と、トラブルなどは手紙でやり取りしながらお話したのが1つ目のフェーズです。

帰国時Apple IIを持ち帰ったのですが、日本語対応のソフトを秋葉原で探していた時に偶然アップル社と親しくしていた会社を見つけたので、そこでApple II-Jプラスを購入しました。

その後、私はマガジンハウス社で『ポパイ』、『ブルータス』でコンピュータ担当の編集をしていましたので、マイクロソフトやコモドールやアップルの取材で海外に行き接点がありました。

2スティープということをよく言いますが、当時はウオズニアックが評価が高く、スティープといえばウオズニアックのことでした。

ジョブズが来日されたときに、私は浅草中屋にも居りましたので、浅草に来たがっていたジョブズ氏を案内した。ちょっとお金があったときには、たまには芸者さんと呼んだりした。

今回の講演で皆さんの禅の話を聞いていると、ジョブズ氏って、そんなに人間が出来ていたのかな、と疑問に感じます。

というのは、1980年代のアメリカのコンピュータ事情という、昔の西部と同じで、強いものが勝ち、バリバリ一儲けしようというものがあつた。

アップルIIからIIIに変る時に、アップル社に対する反体制の勢力が出来ていました。

公表されていませんが、ビル・ゲイツのマイクロソフト社、一番最初、アップルIIのベーシックはビル・ゲイツの

会社で作っていました。

そして反アップルというIBM、NEC、インテルの団体が制していきました。

私は、ジョブズ氏は急に人間が変わっていったと感じます。まず、マックが全てではないということで2005年インテルを導入した。そしてウインドウズでアイチューンを出したこと、これも衝撃的でした。もう一つ、彼が会社に戻ってきた時にビル・ゲイツに頼んで一億ドルくらいの無償増資を受けた。

素朴な疑問ですが、なぜ急に変わったのでしょうか。

【細川】

知野老師から受けた影響が大きいのではないのでしょうか。ジョブズ氏が知野老師に師事していたエピソードは沢山あるが、当時の禅僧はカリスマ的な常軌を逸脱する大きな力を持っていたと感じる。そういう力が禅を引きつける源になっていたのではないか。

【田宮】

ここで、ジョブズ氏に大きな影響を与えた知野老師について触れてみます。

弘文老師は新潟県加茂市定光寺でお生まれになった。私の祖母の従兄弟に当たります。祖母は寺の生まれではなかったが、若い頃から寺の養女のような立場でお世話になったそうです。

弘文師には2人のお婆ちゃん、つまり一人は実母、もう一人は私の祖母が居たわけです。母と弘文老師は1才違いなので、小さい時には私も遊んでいたたりしました。

私がハワイに開教師として赴任した際にも何度か弘文師のところに行ったりハワイに来られたりしました。

今日は定光寺の御住職様もお越しになっています。ご覧になっている写真も定光寺からお借りしたものです。

【細川】

鈴木老師のサンデーサービスで、皆が集まる何かの法要のときに知野老師が鈴木老師の代わりに木魚を叩いていた。しかし急に木魚が静かになった。知野老師はいつの間にか寝ていたというエピソードがあります。

法要は緊張するものだと思うが、感性豊かな自然体の方であるというのが印象的でした。

【秋葉】

知野老師は静かでにこやかな方でした。

ハイク禅堂やタサハラでのメンバーでは、知野老師は伝統的な仏教に反逆した改革者だということをいう人もいます。自然体に淡々とお坊さんらしい生活をされる姿が、世間の常識からずれるところが多々あったためそういう反逆者という評価になるのでしょうか。

よく、天然ボケという言葉がありますが、私から見ても常識はずれのことを淡々と行う、そういう面白い方でした。

【細川】

ジョブズ氏は、やはり、肝臓癌で自分の死に直面して死期を悟ったということで変わったという面があるのだと感じる。一つは其中で、最先端のツールを開発して、コンピュータの世界のトップを走る方だが、生き方は禅の世界

から得たことが多かったのでしょうか。

【中川】

中曽根元首相のように政治家や経営者が禅をやる事例が多いが、悟りや決断できるきっかけが出来るものなのではないでしょうか。

【細川】

「それ」以外に何も無いというか、「それ」を離れて語るものが無い。

ジョブズ氏にしても精一杯生き抜くということが変わってきたのではないかと思います。

【中川】

ジョブズ氏を見ていて、急に心穏やかになった、大きく変わったと感じ、きっとそのきっかけがあると思います。死期に直面したことが、その契機になったのでしょうか？

【田宮】

やはり、死を見つめるということによって自分を見つめるということなのではないでしょうか。

「私は33年間毎朝鏡に自分に問いかけるようにしている…」というフレーズの中で、33年間やり遂げたということがものすごい連続性というか、今を見つめるという姿勢を感じます。

【秋葉】

経営者が日常的に課せられている決断について、この日常の選択は、組織を背負った重い決断・選択であり、どれが成功してどれが失敗するかは分らない。

決断する際には、仏教では何処かで諦める、裁断するということをいう、それが必要なのだらうと思います。ジョブズ氏はそういう決断も、元々気性の激しい人だったので出来たのではないかと思います。

小学校5年の時にIQテストを受けて高校2年生の成績だったというので、ジョブズ氏はどこか天才的な頭の働きがあったのではないかと。

ウオズニアックに出会ったことも、知野老師と出会ったことも、人生の中で幸運な出会いだったのだらうかと感じます。

【田宮】

ジョブズ氏を通してアメリカの禅の広がりを遡って検証して参りました。

ここで質疑応答の時間を取らせていただきます。

質疑応答

(1) 中川氏の禅についての質問について

【会場の発言者】

知野老師は組織的な展開を一切要求しなかったから、ジョブズ氏のような方が寄ってきたのだらう。ジョブズ氏を変えた転機はいくつかあった。一つは会社をやめなければならなかったこと。

ジョブズ氏のみを強調することによって、禅の本質を見失う落とし穴になりかねない。

アップル社を首になったときにジョブズ氏は自分の世界で一生懸命になり過ぎて、周囲に入っていけない、周囲が付いていけない、そのために落とし穴に入ってしまった。そのジョブズ氏を変えたのは何なのか、アップル社で多くの発明ができたのはなぜか。

千年以上前からあった禅の修行だと思う。

自分の作り出してしまった自我、概念、執着を御破算にして、もう一度跳め直すことができたからこそ新しいものが創造できたのではないかと思います。

我々は禅の持っている根本を見失わないようにする必要がありますし、ジョブズ氏のみを見ていると大切なものを見失ってしまうように感じる。

(2) 臨済と曹洞という流れがある中でジョブズ氏がなぜ曹洞宗についてのか

【秋葉老師】

これは人の出会いです。

ジョブズ氏は知野老師に出会う前に様々な宗教、LSD、マリファナの影響を受け、インドにも行った。18歳でトロントに帰ってきたら近くにハイク禅堂があり、禅メディテーションをしているというので、そこに髭茫々で行って見たら、知野老師に出会い、人に惹かれて通うようになった。人柄に引かれて、腑に落ちることも多い、そういうことで、曹洞宗僧侶であった知野老師についてということだと思ふ。

ジョブズ氏は曹洞禅の信者だったという自覚はそれほどは無かっただらう。けれども、知野老師の言葉をジョブズ氏だけでなく、メンバーの人の前でレクチャーし合ったりしているという中で、曹洞禅のことは理解されていたということは間違いはありません。

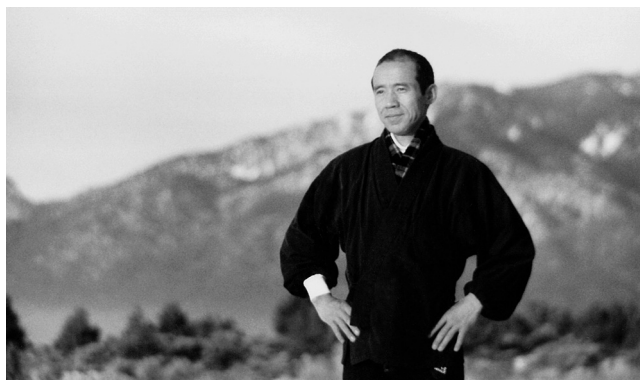
(3) 薬物依存の方々がそういう依存から脱却するために、禅がどのような役割を果たすのか。禅に関して人種的な違いはあるのか。

【秋葉老師】

北アメリカの禅が一般の方々に広がっていったのは1960年代、いわゆるカウンターカルチャー世代、その後のヒッピームーブメントがある。既成の価値観を脱ぎ捨てて自由気ままに生きていこう。その中でLSD、マリファナやフリーセックスなどが現れてきます。

私が20歳前後のころ、ゲーリー・スナイダーの著作など





を読んで、アメリカの若者達は何ということをしているんだ、と思いました。開教1世の方々が遷化される頃より、社会的にも薬物の問題なども厳しくなっていました。

1987年、総監になってから、北アメリカの負の面を払拭しなければならないということで、例えば「第三不邪淫戒を守らないものは曹洞禅を名乗らせない」などを行った。

ただ、曹洞禅としては組織的に対社会的に、薬物やアルコールにより精神の安定を求めようとするものに対し、それをやめようという運動はしていない。ただ、個人的にはチャプレンなどのような活動は盛んにされています。

アメリカでは、禅センターには近隣の方々が坐禅をしにやってきます。白人、黒人、中国系、メキシコ系、それに年齢層も多種多様な方々が来ています。

(4) アップルの製品のデザインに禅の影響があると言われるが、僧侶としてどのように感じるか。

【秋葉老師】

アップルの製品は、箱から中のもので全部、神経を集中してシンプルに統一していることに、友人の僧侶も、「ぎりぎりの線まで単純化し、シンプルに使いやすくする、それは禅の影響を受けている」と言っている。

私も、例えば石庭のセンスとアップルのデザインのセンスは似ていると感じます。

最後に一言

【秋葉老師】

24年間アメリカで活動を行ってきたが、曹洞禅は大変な価値を持ったブランドだと感じる。人間の文明社会は進んできた。しかし、現代文明の負の面を修復し、生き方を説くのが曹洞禅ではないかといっそう感じている。そういう日本の宝があるのだから、どうぞ皆さんも日本の中で自分たちが担っている曹洞禅が大変なものだということを自覚され、広く説いていただければと思います。私もアメリカで広く説いていきたいと思っています。

【中川氏】

是非、坐禅をしたいと考えています。

【細川師】

バーチャルの世界と現実の世界をどのようにリンクさせるのか。禅の本質とは何かを改めて考え直していきたいと思う。

講演会アンケートより

- ・北アメリカ中心に、かなり禅思想を(普及)広めている感じがした。
- ・スティーブ・ジョブズが禅に関わっていた事は驚いた。
- ・スティーブ・ジョブズの考え方と、禅の考え方に共通するものについて、もう少し話があると良かった。
- ・パネリストの各老師が中川氏の疑問(質問)に応えられていないとの印象を受けました。
- ・少々、設定に無理があったのではないのでしょうか。SZIからの一方的な視点で結論を出そうとしても無理かと思います。(私も会社時代はエンジニアでした)
- ・禅の海外布教の現状について全く知識がなかったので、非常に勉強になりました。ジョブズ氏の演説と禅の祖録との対照が非常に興味深いです。
- ・日本の禅についても紹介してほしいかった。中川さんの質問に対しての答えがいろいろでわからなかった? テーマにもう一步、ふみこんだ内容にしてほしいかった。
- ・「スティーブと禅の関係(影響)は良く分からない」ということが分かった。米でも“Zen of Steven Jobs”が出版されているが、このムーブメントは誰が作っているのか? SZIが主導しているのだろうか? 北米での禅の広がり歴史を知れたのは、ためになった。
- ・故ジョブズ氏と禅を積極的に結びつけることは、自身の仕事を一生懸命勤められた氏と淡々と修養され布教をした故乙川氏にとっては、浄土に於いて苦笑をしているかと思われます。しかしながら“禅”が氏に与えた影響は少なからずあるモノと感じました。もう少し、踏み込んで“禅”とのつながりをお話して下さっても良かったかとも。また、配布資料の禅の解説、ジョブズ氏の演説と併せた表記は素晴らしく拝見いたしました。事務局様はじめ主催者のご苦勞に改めて感謝申し上げます。
- ・北米への開教の切り口が親しく判りました。
- ・尖老師がとても熱い方でプロジェクトへの情熱をととも感じました。応援します。ジョブズ氏の映像は見たことがあり、コロンビア大学の「偶然ではなく選択によって人生は作られている」といったようなテーマの授業で紹介されていました。その時は禅との繋がりを知りませんでした。今はジョブズ氏の背景に禅を感じます。また、私も普通の人なので、中川さんの質問は大変興味深かったです。他の分野の方がいると講演会(対談)が面白いです。知野老師について知ることができ、今日来て本当に良かったと思います。
- ・Stay Hungry→学道は貧なるべし!! (『随聞記』)
- ・アメリカでどのように禅が根付いているかわかって、とても興味深かった。中川さんのような外部の方のゲストにより、客観的に禅について語られたのはとても面白く思いました。偉大なるスティーブ・ジョブズの一面を知ることができて大変感謝しています。友人知人たちにも語ってあげたいと思います。
- ・アメリカの禅と日本の禅の間には大きなギャップがあり、そのギャップに討論の話題の焦点を分析することが必要でしょう。
- ・ジョブズについてのエピソードがもっと出れば、さらに良かったと思う。

特別寄稿

現代のアメリカで禅がなぜ脚光を浴びているのか

庭 園 デ ザ イ ナ ー ます の しゅん みょう
多摩美術大学環境デザイン学科教授 枡 野 俊 明 (神奈川県建功寺住職)
ブリティッシュ・コロンビア大学特別教授

アップル社を創設したスティーブ・ジョブズ。彼の登場によって、社会は大きく変化しました。その業績は今さら言うまでもありませんが、21世紀最大のイノベーターであることは誰もが認めることでしょう。世界中の若者がジョブズに憧れ、彼の思考から多くのものを学ぼうとしました。ジョブズが「禅」の考え方に深く傾倒していたことは良く知られていますが、彼に禅の教えを説き、生涯に渡って深い交流を持ち続けたのが、乙川弘文老師でありました。カリフォルニアでの出会いから始まり、ローレンス・パウエルさんとの結婚式を司り、別会社の宗教指導者に任命される程の深い関係でありました。ジョブズの不遇の時代を支えたのは乙川老師による禅の教えであったといわれています。彼が受けた禅の教えは、彼の生き方そのもの、アップル社の経営哲学、製品開発哲学に十分に生かされたのだと思います。

アメリカはこれまで大量生産、大量消費こそが経済を発展させ、人々の暮らしを豊かにしてくれる最高の方法だ、という信念で国家全体が活動をしてきました。日本国民も同様「ものの豊かさ」こそが、人々を幸せに導いてくれるものだと信じて走り続けてきました。その結果、情報化、スピード化、国際化などが急速に進み、いわゆる科学文明とか、物質文明社会と呼ばれる時代を築きあげました。そしてテレビや冷蔵庫同様に、どの家にもコンピュータが普及し、誰もが携帯電話を持つようになりました。これらの普及が便利な個人生活を現実のものとし、同時に速さと便利さが、現代社会をつくりあげたのです。ジョブズが率いてきたアップル社も、まさにこの大きな流れの上に乗れ、成長を遂げ大成功を収めることが出来たのです。しかし、彼の考え方は、禅の考え方が反映されたものでした。当初ジョブズの考えた「マッキントッシュ」が、徹底的にデザインや使い勝手を考え、余分なものをそぎ落としてゆく独特な発想から生まれたものであることは、その製品を見れば、誰しもが納得できるものです。これは禅の考え方が製品づくりに大きく影響を及ぼしている結果です。禅が標榜する「簡素の美」がその原点に在るのです。

一方で、この便利になった現代社会は、人々に欲望への刺激を与える社会でもあります。情報化の進展により、見なくても知らなくても良かった情報までが自然に入って来ってしまう。知ってしまうと人の欲望に火が付き、欲望は限りなく膨らみ、留まることを知りません。欲しいものを手に入れても、すぐまた次のものが欲しくなってしまう。もっといいもの、新しいものと、執着心がどんどん膨らんでいく。これが「執着心のスパイラル」「欲望のスパイラル」です。こんな欲望に際限がなくなった社会が現代のアメリカであり、日本でもあるのです。

しかし、21世紀に入り、この際限のない欲望の世界に多くの人が疑問を持つようになりました。経済発展の弊害ともいえる地球規模での環境問題が大きく取り上げられる時代になりました。生きていく上で、これまでのものを中心とした価値観と異なった価値観はないのか、ものの豊かさ人間が感じる生活の豊かさとはイコールではない、という事に多くの

人が気付き始めたのです。そして、ものではなく、心の豊かさを感じられる生き方はないのか、多くの関心事が環境問題へ向くのと呼応して価値観の変化を模索し始めたのでした。

欧米の知識人から、このような動きが起こり始めたのが、90年代の中頃からでしょうか。その動きが次第に広がってきたのです。そして、疑問を持ち始めた人たちが目を向けたのが、日本の禅でした。禅の徹底的に自己を見つめ、心の安定を得、心の豊かさを大事にする点が、海外で大きく注目されたのです。ジョブズもそのような疑問を持ち始めた時に、乙川老師との出会いがあり、急速に関心を深めていったのではないのでしょうか。

彼は毎日、「今日が人生の最後の日であったとしたら、今自分自身の進めている仕事は、現在のままで良いのか否か」を、朝、鏡の前で自問自答していたそうです。これは当に禅的発想です。そして、彼のもの作りは、一つの発想に執着することなく、心を常に自由に遊ばせながら、便利で限りなく使いやすい製品を考えていくことです。アップル社の製品は、どれも万民が簡単に使いこなせる製品であり、尚且つ便利なものです。便利さを考えながら、余分な機能はそぎ落として徹底的に単純化する。これが彼の発想です。そしてデザインも徹底的に美しく単純にする。これがジョブズ氏の凄い所です。

日本人は、一つのものを徹底的に掘り下げていくことを得意としています。例えば携帯電話がそうです。探究心を掘り下げていくことによって、多機能な携帯電話を生み出しましたが、一方で、機能が優れすぎて使いこなせない。これが「ガラパゴス化現象」です。

ジョブズの発想は、これと全く正反対であり、彼の率いるアップル社はコンピュータ会社にもかかわらず、通信可能な携帯型コンピュータを開発しました。これがスマートフォンです。一挙に世界中に普及しました。通信業界のものは通信業界で作る。他の業種がやるべきことではない。こうした考えに捕らわれていた日本企業はみごとに足元をすくわれた形になってしまいました。

これまでの、ものを手に入れることで幸福になれると信じた時代は過ぎ去りました。これからは真の幸福を模索する時代です。眼に見えるものだけを追い求めていく時代は終わったのです。目に見えないものの中にこそ真実が宿っている。それを自分自身に問いかけ続け、見つけ出すことが、新しい時代の価値観です。ここに今、そして将来に向かって、「禅」が世界的に大きく脚光を浴びてきた理由があります。私は日頃「禅の庭」のデザインを行っていますが、今日、世界中から問い合わせが来る理由がここに潜んでいると思っています。

今、世界中の目は、ジョブズの成し得た成功と、彼が拠り所とした「禅」、そして彼の生き方そのものに向けられています。この世界的に湧き上がってきた「禅」への関心に、今後、宗門はどのように応えて行くか、その姿勢と覚悟が強く求められているのです。

合掌

SOTO禅インターナショナル2011年度収支決算報告書

総収入金 ￥5,602,025
総支出金 ￥5,028,810
差引残高 ￥573,215

収入の部				2011年1月1日～2011年12月31日		備 考
項 目	本年度予算(a)	本年度決算(b)	増 減(b-a)			
会費収入	2,500,000	2,100,000	-400,000	年会費		
事業収入	200,000	283,000	83,000	総会会費など		
助成金	1,200,000	200,000	-1,000,000	宗務庁		
雑収入	500,000	922,503	422,503	利子、添葉、賛助金		
塔婆植林事業収入	750,000	589,910	-160,090			
繰越金	1,506,612	1,506,612	0	前年度よりの繰越金		
計	6,656,612	5,602,025	-1,054,587			

支出の部

項 目	本年度予算(a)	本年度決算(b)	増 減(b-a)	備 考
国際布教支援事業費	500,000	500,000	0	国際布教支援積立金へ
事業費	3,000,000	2,266,792	-733,208	総会、両大本山IWS、ゆめ観音、伝道史編集事業等
印刷費	100,000	24,706	-75,294	各種印刷費
会報費	1,000,000	1,212,805	212,805	会報印刷、発送費、会報担当費
会議費	500,000	512,704	12,704	各会議費、会議交通費支弁
事務費	200,000	205,189	5,189	事務連絡費、消耗品費、振込手数料等
通信費	100,000	7,880	-92,120	会報以外の郵送費等
備品費	30,000	0	-30,000	
渉外費	50,000	15,000	-35,000	慶弔電報、供花等
塔婆植林事業費	750,000	283,734	-466,266	GNCへ25万円寄託、本年3月迄に残額を寄託
予備費	426,612	0	-426,612	
計	6,656,612	5,028,810	-1,627,802	

国際布教支援積立金	定期預金 (前年度まで)	7,565,363 (a)
本年度国際布教支援事業費	500,000 (b)	年度会計からの入金
本年度取り崩し (国際布教支援金)	1,000,000 (c)	曹洞宗義理金へ寄託
本年度累計額 (次年度へ繰越)	7,065,363 (a+b-c)	定期貯金

上記の通り報告書を提出致します。
SOTO禅インターナショナル 会計 太 田 賢 孝 (印)
平成24年2月16日
監査の結果、上記の通り相違ありません。
SOTO禅インターナショナル 監事 黒 柳 博 仁 (印)
SOTO禅インターナショナル 監事 葉 貴 成 悟 (印)
平成24年2月16日

2011年度SZI 事業報告

活動テーマ＜温故知新 一顧の見える支援交流活動＞(2011年1月1日～12月31日)

★ 自己研鑽事業

宗教間対話研究所月例会参加・各種講演会・勉強会参加・役員各自ブログ開設・運営

★ 講演事業

- ☆ 総会／講演会 主催
・2月28日(月) 曹洞宗檀信徒会館
講演会 講師 小笠原隆元老師
- ☆ 両大本山ワークショップ 主催
・5月 2日(月) 總持寺ワークショップ 講師 武蔵野大学教授 ケネス田中先生
・ 永平寺ワークショップ (都合により開催せず)

★ 布教・協力支援事業

- ☆ ゆめ観音アジアフェスティバル 主催
・9月10日(土) 第13回ゆめ観音アジアフェスティバル 大船観音寺
- ・6月19日(金) キャンドルナイト in 大船観音
- ☆ サイパン南演堂参拝 共催
・11月14～18日 東京宗務所主催移動研修随員 サイパン島南演堂
- ☆ 元国際布教師連絡会・瑞岳院30周年記念事業／交流・協賛
・11月17日(木) 神奈川県湯河原・檜ホー－ル
- ☆ 各種行事人材派遣／交流
・7月初旬 聖護寺国際安居通訳派遣 熊本県・聖護寺

☆ 塔婆供養で植林支援プロジェクト

・ GNCモンゴルと協働により継続 本年度1期目 1万2千5百本の植林 (累計10万本)

★ 出版事業

SZ I会報46号(4月)、47号(8月)、48号(12月)
海外寺院ガイドブック更新
『曹洞宗海外日系寺院史』編纂継続

★ 広報事業

SZ Iホームページの運営・海外寺院ガイドブックWeb版の運営
ブログやEメールなどによる各事業の広報活動・情報提供

★ 国際布教支援金の運用

本年は東日本大震災復興支援として宗務庁に100万円を寄託

★ 災害被災地慰問・復興支援活動

寺院慰問、そのほか役員各自により活動

2011年度SZI事業計画 (案)

活動テーマく 温故知新 一顧の見える支援交流活動ー>(2012年1月1日～12月31日)

★自己研鑽事業

宗教間対話研究所月例会参加・各種講演会・勉強会参加・役員各自ブログ開設・運営

★講演事業

☆総会／講演会 主催

・2月16日(木) 曹洞宗檀信徒会館

講演会 講師 秋葉玄吾老師、尖秀雄老師

☆両大本山ワークシヨップ 主催

・6月 總持寺ワークシヨップ (予定)

・6月 7日(木) 永平寺ワークシヨップ (予定)

★布教・協力支援事業

☆各種行事人材派遣／交流

・3月9～11日 第8回ハワイ・北アメリカ日系寺院檀信徒大会参加

曹洞宗ハワイ国際布教総監部主催・アラモアナホテル

・9月 7日(金) 北アメリカ開教90周年

☆塔婆供養で植林支援プロジェクト

・GNC モンゴルと協働により継続

★出版事業

SZ I 会報49号(4月)、50号(8月)、51号(12月)

海外寺院ガイドブック更新

『曹洞宗海外日系寺院史』編纂継続

★広報事業

SZ I ホームページの運営・海外寺院ガイドブック Web 版の運営

ブログやEメールなどによる各事業の広報活動・情報提供

★国際布教支援金の運用

・希望者の募集、対象者の選定、その他

★災害被災地慰問・復興支援活動

寺院慰問、そのほか役員各自により活動

SOTO禅インターナショナル2012年度収支予算

総収入金 ¥5,523,215
総支出金 ¥5,523,215
差引残高 ¥0

収入の部					2012年1月1日～2012年12月31日	
項 目	前年度予算(a)	本年度予算(b)	増 減(b-a)	備 考		
会費収入	2,500,000	2,300,000	-200,000	年会費		
事業収入	200,000	250,000	50,000	総会会費など		
助成金	1,200,000	1,200,000	0	宗務行・両大本山		
雑収入	500,000	500,000	0	利子・添葉、賛助金		
塔婆植林事業収入	750,000	700,000	-50,000			
繰越金	1,506,612	573,215	-933,397	前年度よりの繰越金		
計	6,656,612	5,523,215	-1,133,397			

支出の部						
項 目	前年度予算(a)	本年度予算(b)	増 減(b-a)	備 考		
国際布教支援事業費	500,000	500,000	0	国際布教支援積立金へ		
事業費	3,000,000	2,000,000	-1,000,000	総会50万・両大本山IWS70万、伝達費継続事業等80万		
印刷費	100,000	100,000	0	各種印刷費		
会報費	1,000,000	1,000,000	0	会報印刷、発送費、会報担当費		
会議費	500,000	500,000	0	各会議費、会議交通費弁済		
事務費	200,000	200,000	0	事務連絡費、消耗品費、振込手数料等		
通信費	100,000	100,000	0	会報以外の郵送費等		
備品費	30,000	30,000	0			
渉外費	50,000	50,000	0	慶弔電報、供花等		
塔婆植林事業費	750,000	700,000	-50,000	GNCへ寄託		
予備費	426,612	343,215	-83,397			
計	6,656,612	5,523,215	-1,133,397			

国際布教支援積立金	定期預金(前年度まで)	7,065,363 (a)	
本年度国際布教支援事業費	本年度国際布教支援事業費	500,000 (b)	年度会計からの入金
本年度取り崩し(国際布教支援金)	本年度取り崩し(国際布教支援金)	1,000,000 (c)	
本年度累計額(次年度へ繰越)	本年度累計額(次年度へ繰越)	6,565,363 (a+b-c)	定期貯金

上記の通り予算書を提出致します。

平成24年2月16日

SOTO禅インターナショナル 会長 細 川 正 善 (印)

SOTO禅インターナショナル 会計 太 田 賢 孝 (印)

… 海外レポート …

第8回 曹洞宗ハワイ・北アメリカ檀信徒大会参加報告

2012年3月10日・11日の両日に亘って、ハワイ州オアフ島ホノルルに於きまして、第8回曹洞宗ハワイ・北アメリカ檀信徒大会が開催されました。この大会は1988年に第1回が開催されてから、基本的に隔年で北アメリカ開教区とハワイ開教区の持ち回りで行われておりますが、今年は曹洞宗ハワイ寺院連盟、曹洞宗ハワイ国際布教総監部が主催となり、アラモアナホテルを会場として開催されました。

今回の大会は、「Nurturing Peace Through Our Buddhist Faith」（仏教を通じて、平穏な心を育もう）をメインテーマとしており、ハワイ、北アメリカ各総監部日系寺院の檀信徒間の交流を図り、今後の布教活動・寺院運営に関しての意見交換の場を作ることを趣旨として開催されたものです。

SOTO禅インターナショナルより細川正善・福島伸悦・亀野哲也・細川浩代・佐藤慧真ほか寺族2名がこの大会に参加いたしましたので、以下ご報告申し上げます。

●全体報告

事務局長 亀野哲也（神奈川県貞昌院副住職）

■3月9日

大会の前日に、アメリカ本土および日本からの参加者を対象にオアフ島にある曹洞宗寺院のうち、両大本山別院正法寺、ワイパフ大陽寺、アイエア太平寺の3カ寺へ案内いただき、駒形宗彦総監のご案内のもと拝登、交流会が行われました。

曹洞宗ハワイ別院正法寺（Soto Mission of Hawaii Shoboji）は、ワイキキビーチから車で10分ほどの Nuuanu Avenue、日本領事館の向かいに位置し、国際総監部が設置されています。正法寺は1913年創立という日系社会と歩んだ長い歴史を持ちます。しかし太平洋戦争終戦後、ハワイの日系社会は大きく変貌しました。1世からハワイで生まれ育った2世の時代になり、戦前まで温存されていた日本の生活様式が次第にアメリカ化し始めたのです。この変化に対応するために、当時別院の住職だった駒形善教師が、これまでの日本式の寺院ではなく、国際化社会に対応する本堂を建設する方針を打ち出し、日本の木造建築の本堂とは様相が異なるインドのブッダガヤ大塔のような建物として1952年に完成しました。

境内には、日本語学校としての和敬学園がありましたが、1990年に「曹洞アカデミー」という英語の小学校になっています。

本堂内部は教会のような造りが特徴です。参列席は長椅子、真ん中に通路があります。週末には日系2世の仏式

結婚式が毎週のように行われ、1950年代から80年代後半までに500組以上の挙式が行われたそうです。仏前結婚式は、もちろん現在でも行われておりますし、一般の方の海外ウエディングもできます。



ブッダガヤ大塔のようなハワイ別院正法寺

次に訪れたのは、ワイパフ大陽寺です。

大陽寺は、1903（明治36）年に河原仙英師によりサトウキビ畑の広がる入植地の一角に建立された、ハワイで一番古い寺院です。

拝登後、境内のホールでメンバーの皆さんによりご用意いただいた果物、スイーツなどをいただきました。ホールの壇上には60年以上の歴史を持つ雛人形が飾られていました。



ワイパフ大陽寺では、手作りの料理によるおもてなしを受けた

最後にアイエア太平寺へ拝登し、1日目の行程を終えました。太平寺本堂内部も、やはり教会のような造りが特徴です。またハワイの寺院には、必ず星条旗が掲げられてい

ます。本堂の前にはパトカーが駐車されていましたが、太平寺の国際布教師である駒形宗二師はホノルル警察チャレンとして心のケア活動に積極的に関わっており(次号で詳しく紹介の予定です)、また太鼓グループ「宗明太鼓」で指導もされています。

■3月10日 大会1日目

午前10時に開会式が始まり、曹洞宗ハワイ寺院連盟理事長による歓迎の挨拶、曹洞宗ハワイ国際布教総監 駒形宗彦老師導師による開会諷経が厳修されました。

来賓挨拶は釜田教化部長老師、式中は、ハワイ梅花講による詠讃歌「三宝御和讃」「まごころに生きる」が奉詠されました。

引続き、スライドにより、北アメリカ国際布教総監部、国際センター、ハワイ国際布教総監部の活動紹介が、それぞれルメー大岳総監、藤田一照所長、駒形宗彦総監により行われ、ハワイ寺院連盟作成の「ハワイにおける曹洞宗」DVDがお披露目されました。

昼食を挟んで、午後はハワイ州立大学名誉教授・ジョージ田辺氏による基調講演が行われ、「私たち仏教徒は信頼によりいかに平和に貢献できるか」という中で、仏教の教えと共に日本人のこころに根づいている聖徳太子の和の精神が、今後の仏教の方向性に大きく貢献するであろうと述



パネルディスカッション中のルメー大岳北米総監。
右は駒形フェイ氏



北米国際布教師の小島秀明師(左)と
国際センター所長の藤田一照師

べられました。その後、ルメー大岳総監、藤田一照所長、小島秀明師(北アメリカ国際布教師)、駒形フェイ氏(ハワイ寺族会会長)をパネリストとし、基調講演の内容をそれぞれの立場から実例をもとに意見を述べ、質疑応答が行われました。この基調講演及びパネルディスカッションは、大会2日目に予定されている分科会の基礎となるものであります。

夕方には歓迎晩餐会が開かれました。

ハワイ、北アメリカ、日本各地から集まった方々の交流を深める場でもありますし、清興で披露されたハワイ祭り太鼓& 宗明太鼓は特に心に刻まれました。この太鼓は、クム・フラというハワイの伝統的な踊りの先生から歴史や実技を勉強し、日本の伝統である太鼓の演奏の中に取り入れたもので、独自の演奏形態を持っています。変化しつつある日系社会と同様に、どのように日系仏教寺院は変わっていくべきかという一つの具体的な答えとして、このハワイ祭り太鼓& 宗明太鼓があると感じました。



歓迎晩餐会で披露された太鼓は迫力満点

晩餐会の最後には、皆が会場に大きな輪をつくり、福島音頭、平和音頭を踊りました。

心をひとつに、楽しい時間は瞬間に過ぎていきました。

■3月11日 大会2日目

この日は、東日本大震災発生から1年目にあたり、午前9時より東日本大震災物故者追悼法要が町田時保前ハワイ国際布教総監を導師として厳修されました。



東日本大震災物故者追悼法要

改めて震災で命を落とされた多くの方々に弔意を表し、未だ避難生活を余儀なくされている皆様には1日も早く平穏な日々が取り戻されますよう心から願います。

法要に引続き、1日目の基調講演、パネルディスカッションを受けて、分科会が行われました。

議題1『仏教の教えを通して、どのように平穏な心を育てるか? 安心の「こころ」はどのように芽生えるのか?』
議題2『苦しい時や大惨事を目の前にしてどのように心を落ち着かせるか。移りゆく世の中に生きていくのは大変だが、その中でどのようにしたら冷静さを保つ事が出来るか?』
議題3『仏教の教えはどのように社会に貢献が出来るか? 仏教徒として、他の人の人生にどのように役に立てるか?』
という3部会に分かれ、それぞれ各寺院で現在行っている活動などを紹介し、お互いに新しいアイデアや発想を学びあいました。

第2部会では、SZIから参加した細川正善会長による被災地の現状報告と「絆」をもとにした実践アイデアが出され、論議が広がっていきました。



分科会で発言する細川正善SZI会長

第3部会では、寺院活動の中で、やはり「坐禅会」というシンプルな活動が、今後の寺院活動において基軸にすえられるべきであるという意見や、ステイブ・ジョブズ氏の「Stay hungry, Stay foolish」の精神などについて論議が重ねられました。

特に多くの参加者が若い世代の活動に興味を示し、次



各分会のレポートに、熱心に耳を聞き入れる聴衆

世代を引き入れるためにはどのようにしたらよいか、具体的な活動に意見や質問が集中しました。僧侶のリーダーシップがいかに大事か、アクティビティーも多方面の方々にお寺に来ていただく契機としては大事であるが、やはり精神的な依りところとしての居心地のよい環境作りがいかに大切かということなどを皆共有しているように感じました。

分科会終了後、暫時休憩をとった参加者は再びメイン会場に参集し、各分会からのレポートと質疑応答が行われ、ジョージ田辺教授、駒形総監からの総括がなされました。

その後、ルメー大岳総監導師による閉講讃経。昼餐会を以って第8回ハワイ・北米檀信徒大会は幕を閉じました。

檀信徒大会の意義も、元来はハワイと北アメリカの檀信徒がこれからのアメリカにおける布教のあり方を話し合う事が目的だったようですが、回数を重ねるにつれて、旧友に会える喜びの比重が大きくなっていると感じます。顔を合わせて食事をし、話をする親睦がいかに重要かを再認識しました。大会の方向性も大会宣言を出して何らかの結論を出そうとする形ではなく、それぞれのアイデアや活動、情報を共有することで、それを自分たちの寺院に還元していくという姿勢が伝わってきました。

そして、このような有意義な大会の内容と、ハワイ、北アメリカにおける寺院、メンバーの皆さんたちの活動は、アメリカ国内に留まらず、日本の寺院にとっても学ぶべきことが多いものです。3日間という短い時間でしたが、多くのことを学んだ大会でした。

末筆になりましたが、大会の期間お世話になりました駒形総監老師をはじめハワイ寺院連盟の皆様、ハワイ国際布教総監部の皆様、メンバーの皆様、関係の方々全てに感謝の意を表します。Mahalo nui loa!

●大会に参加して

黒宮ヤヨイ(福島県天徳寺寺族)

今回、曹洞宗ハワイ・北アメリカ檀信徒大会に参加するという住職と義姉に同行させていただきました。何せ6年ぶりの海外旅行でもあり、わくわくドキドキの連続でした。初日のオアフ島管内寺院巡りでは、それぞれの寺院の皆様から温かいおもてなしに感激いたしました。

また英語の話せない私は、不安だらけでしたが日本語で話しかけていただき、ほっとしました。長い間現地で過ごしの皆さんは、大変なご苦勞もおありだったでしょうに、仏様に寄り添われ、守られて、心穏やかに過ごしていられるのだなと皆様のお顔を見てそう思いました。

2日目の午前中の開会式等には参加したものの、その後の基調講演及び全体会議のお話は、英語で行われたため自室で待機しておりました。

夜の歓迎晩餐会は、楽しく参加させていただきました。清興のハワイ祭り太鼓&宗明太鼓の響きには圧倒され続け

ました。また、最後の盆ダンスは会場いっぱいに丸くなり、全員参加で踊り続けました。

本当に楽しい部分での参加しかできなかった自分に、英語が話せたらなと後悔の念で帰ってきた私でした。

合掌



歓迎晩餐会最後には全員で盆ダンス！

●アロハスピリットと慈悲のこころ

佐藤慧真(新潟県興源寺徒弟)

大会前日、皆様に少し遅れて現地入りした私は、一人タクシーで別院へと急ぐことになりました。到着して料金を支払おうとすると、運転手の方が「いらないです」と言い、「お坊さんだから」と私に向かって手を合わせました。どうやら上座部圏出身の方だったようですが、いきなり法の雨に濡れたような気分を味わいました。

その後オアフ島管内寺院巡りとして、北米からの参加者の皆様と共に別院のある正法寺、ワイパフ太陽寺、アイエア太平寺に拝登させていただきました。どこでもお弁当や婦人会の皆様の手作りの料理、おみやげなどの他、温かく穏やかな笑顔と会話のおもてなしをいただき、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。大会中もメンバーや婦人会の皆さんの様子、清興のウクレレ演奏や太鼓グループの仲の良さなどを拝見するにつけ、明るさや優しさ、他者との垣根の低いおおらかさが伺え、これがアロハスピリットというものかと感激いたしました。



大福寺でお年寄りと一緒に体操をしているところ

大会の後には、ハワイ島コナにある大福寺の中出慈光尼に連れられ、数日お寺に滞在しメンバーの皆様と交流する機会を得ました。大福寺にいる間、観光客(海外の観光ガイドブックにも紹介されているとのこと)や毎日何か行われている坐禅会や太鼓グループ、お年寄りのお楽しみ会などの活動のためにメンバーや地域の方々がひっきりなしに訪れているのを目にしました。大会では「3世になるとお寺への足が遠のいてしまい、メンバーが減って来て困っている」という声を耳にしましたが、大福寺はメンバーが増えており、納骨堂も増築されております。なぜ大福寺に活気があるのでしょうか。

まず、コナは他地域より日系人の割合が少なく、アメリカ本土からの移住者の割合が高い地域で、そういう人々が大福寺に足を運んで来ているとのこと。新参の居住者を昔からの日系メンバーが受け入れることのできるおおらかな素地が前住職(田宮隆児師)の時代からあったようです。「だいたいお寺のコミュニティーに入れられないような自己主張の強い人は、コナには住めずに淘汰されますから」という話も耳にしました。次に、慈光尼も田宮前住職もハワイ育ちで地元の文化やハワイ訛りなどまで分かり、メンバーと物理的にも精神的にも微妙なところまでやりとりが出来、密接な関係が育ったということがあるようです。また、大福寺では次世代を意識するよりまず「お年寄りを大切にすること」を意識して来たとのこと、意外に思い、またなるほどと納得もいたしました。最後に、慈光尼の慈悲に溢れた人柄が、お寺に人を呼んでいるのではないだろうかと思うのは私だけではないでしょう。

ハワイ各島は自然と共にあり、日系人には苦しい現実の中でコミュニティーと支え合って生きてきた百年以上の長い歴史があります。大福寺では、自然と人、人と人との共生の中で、慈悲のこころが中出慈光尼やお弟子さんの中出慈海尼、婦人会やボランティアのメンバーの実践する姿となって活きていました。



最後に、清興に飛び入りした福島伸悦師の桴さばきを紹介(しかし翌日マッサージの噂も?)

… 国内レポート …

東日本大震災復興萬燈供養会を厳修して

曹洞宗神奈川県青年同志会 実行委員長

くろのぜんし
玄野善識 (神奈川県長昌寺副住職)

あの日本中を震撼させた東日本大震災から1年が過ぎました。改めてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に被災者の皆様にお見舞い申し上げます。

青年同志会では、平成24年3月11日午後5時、大梵鐘の打ち出しで「東日本大震災復興萬燈供養会」を厳修しました。神奈川県第二宗務所管内御寺院のご協力を得て、檀信徒をはじめ近隣の方々など300名を超える方々と共に萬燈の明かりがきらめく中、法要を厳修し、経木塔婆志納金など全てSVA（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会）を通じて義捐金として寄付させていただきました。

本年度は、青年同志会発足50周年を迎え、さまざまな記念行事を数年前より計画しておりましたが、震災直後の3月中には、守長秀文会長の「今の私たちにできることをまずやりましょう」の一声で必要最低限以外の行事はキャンセルされ、神奈川県第2宗務所を通じて被災地ボランティア活動に参加させていただきました。現地入りし、ガレキ撤去作業、炊き出しなどを通じて被災地の状況や必死に生きる人々に触れ、各々口には出さずとも多くの事を肌で感じ、さまざまな事を考えさせられました。そして、東北地方でよく行われている萬燈供養会の計画がすぐに決定しました。

しかし、青年同志会にとって萬燈供養会は初めての試み。法要経験者も少ない中での手探りの準備が始まりました。法要の進め方、集客の方法、経費、義捐金の取り扱い方等々、約半年という限られた時間の中でしたが着々と準備が進められてゆき、川崎、横浜をはじめ、横須賀、茅ヶ崎、相模原、大和、海老名、厚木方面など

各地より多くのお申し込みをいただき、各人の願いが書かれた原稿を経木塔婆に転写させていただきました。また、宗務所を介し被災地の方々からも亡くなられた方の慰霊や復興の願いなどが書かれた経木塔婆を届けていただきました。各人の願いを書き写すうちに、さまざまな思いが駆け巡り、会員の気持ちも一層引き締まってまいりました。

当日は心配していたお天気にも恵まれ、午後から陽も差し込んできました。最終準備確認を行い、夕方になるといよいよ萬燈の明かりを灯し、県内各地よりお参りの方々がお見えになられ本堂内は満員となりました。法要の中心となる大導師を本覺寺ご住職守長尚文老師にお願いし、幻想的な萬燈の明かりのみで法要は始まりました。参加者一同で般若心経を読経し、願い事の書かれた経木塔婆に経文を書き入れ、荘厳な雰囲気の中にお参りの方々も見とれておられました。本堂内の法要終了後、外に出て経木塔婆のお焚きあげを行い、燃え盛る炎の前で参列者の方々にお焼香を賜り、一同冥福と復興の祈りを捧げました。全ての法要が終わり、今日の想いを忘れずにいてほしいと願い、気持ちの籠った供養カップローソクを全員にお持ち帰りいただきました。

今回の萬燈供養会を通じて、日本人の強い絆を改めて感じました。皆様方の願い、祈りは必ず届いていると思います。復興はまだまだ始まったばかり。我々も引き続きできる限りの協力をしてまいりたいと思います。

最後にご協力いただきました御寺院様、参列者の皆様、企業の方々、賛助いただきました皆様に厚く感謝御礼申し上げます。

合掌



SZI express

会費納入者・賛助金納入者名簿 2011年12月18日～2012年3月20日まで

ありがとうございます。
大切にに使わせていただきます。

■ 会費納入者ご芳名

2011/12/18 ～ 2012/3/20
(順不同・敬称略)

愛知県 地藏寺 浅井宣亮
長野県 天周院 黒柳博仁
静岡県 萬松院 吉田宏得
静岡県 山王寺 青山嶺雲
山形県 般若寺 藤川享胤

■ 賛助金納入者ご芳名

2011/12/18 ～ 2012/3/20
(順不同・敬称略)

愛知県 地藏寺 浅井宣亮
長野県 天周院 黒柳博仁
山形県 般若寺 藤川享胤
山形県 桃源院 山本健善

埼玉県 長光寺 福島伸悦
東京都 宗清寺 飯島尚之
埼玉県 興禪寺 武田秀嗣
静岡県 山王寺 青山嶺雲
神奈川県 吉祥院 尖 秀雄
福島県 天徳寺 細川正善

■ 塔婆供養で植林支援協賛者ご芳名

2011/12/18 ～ 2012/3/20
(順不同・敬称略)

静岡県 永明寺
青森県 大乘寺
東京都 鏡徳寺
茨城県 龍源寺
群馬県 成興寺
岡山県 新湯寺
新潟県 大栄寺
福島県 天徳寺
東京都 清蔵寺
青木尚子
渡辺龍道
小倉玄照
細川正善
来馬宗憲

東京都 松月院 仲井哲應
神奈川 鈴木友子
茨城県 龍泉院 計良弘信
宮城県 秀林寺
埼玉県 建福寺
栃木県 乾徳寺
東京都 龍澤寺
地蔵寺 関岡俊二
福島県 長泉寺 浅井宣亮
宮城県 洞安寺 石月聰明
秋田県 大川寺 大山浄心
神奈川 大蔵時 棟方宣之
愛知県 一心寺 佐藤直道
神奈川 興禪寺 市川智彬
岩手県 祇陀寺 吉田大信
宮城県 城國寺 菅原英州
秋田県 中泉俊晃
福島県 安禪寺
神奈川 中野東禪

東京都 宗清寺 飯島尚之
東京都 三藤 禅素女
東京都 長谷川 連
千葉県 長興寺 宮下陽祐
福島県 昌建寺 秋 央文
東京都 大龍寺
千葉県 永興寺

■ 賛助金

曹洞宗宗務庁

■ 助成金

大本山永平寺
大本山總持寺

動 静 報 告

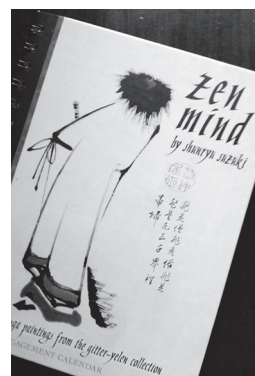
2011年12月19日～2012年3月31日

- 12月20日 会報48号発送作業
- 1月23日 総会・講演会打ち合わせ (東京)
- 1月25日 役員会、編集会議 (檀信徒会館)
- 2月16日 総会・講演会・懇親会 (檀信徒会館)
- 3月9日～11日 ハワイ・北米檀信徒大会参加
(ハワイ・ワイキキ・アラモアナホテル)
- 3月22日 編集会議 (神田ルノワール・マイスペース)
- なお、随時インターネットで役員会を開催いたしております。

編・集・後・記

ハワイ北米檀信徒大会に参加しての帰りの飛行機の中。隣り合ったアメリカ人の方が、故鈴木俊隆老師のもとで坐禅の指導を受けておられたということを知りました。私は最近鈴木老師のお弟子さんが書かれた伝記を読んだばかり。使っているノートは『Zen mind by shunryu suzuki』。そんなわけで、盛り上がって楽しい空の上の時間を過ごしました。いろいろなところで、学びの縁に出会っていることに感謝です。

慧真合掌



「塔婆供養で植林支援」 のご報告



2011年度分としてGNCに2万本分の植林支援を行いました。
GNCより、細川会長が支援の証明書を受領いたしました。

LA禅宗寺 90周年 境内美化基金について

Zenshuji Soto Mission 90th Anniversary Beautification Fund

両大本山北米別院禅宗寺では、2012年9月に開創90周年を迎えるにあたり、9万ドルを目標とした境内の美化(整備)基金を募集しているとのことです。この基金は、以下の目的のために使用されます。

- 1、雨漏りによって法要や各種の行事に支障をきたしている屋根と雨どいを修理する(急を要している)。
- 2、新しい絵画や写真を展示することにより、内部の雰囲気改善。また椅子、その他を購入、あるいは修理する。
- 3、外観の美化、親しみやすいお寺にするために、案内板・照明を設置し、外壁の塗装・塀垣を作りかえる。

募金者名は次のカテゴリーごとに、禅宗寺の寺報の特別号に掲載されます。
\$10,000以上 Titanium, \$5,000以上 Diamond, \$3,000以上 Platinum,
\$1,000以上 Gold, \$500以上 Silver, \$100以上 Bronze

募金方法は、www.zenshuji.orgをご覧ください。直接禅宗寺まで(1-213-624-8658日本語可)お電話にてお問合せください。

SOTO禅インターナショナル 両大本山ワークショップのご案内

演題・講師 未定

2012年6月1日(金) 午後2時30分より

●大本山總持寺 三松閣4階大講堂 (JR鶴見駅徒歩10分)

※一般の方の聴講も歓迎いたします。

参加希望者は、ご住所、氏名、連絡先電話番号と
「SZI両大本山ワークショップ希望」と明記の上、
はがき(〒233-0012 横浜市港南区上永谷5-1-3
SOTO禅インターナショナル事務局宛て)か
FAX (045-843-8864) にてお申込み下さい。

2012年6月7日(木) 午後6時30分より

●大本山永平寺

※内講により、修行僧のみの聴講となります。

CONTENTS

▶巻頭	Soto Mission of Hawaii (ハワイ別院正法寺) 100周年を迎えるにあたり……ハワイ国際布教総監 駒形 宗彦	1
▶特集	2012年度総会・講演会報告	
	SOTO禅インターナショナル2012年度総会報告	2
	講演会抄録「スティーブ・ジョブズと北アメリカの禅」……前・北アメリカ国際布教総監 秋葉 玄吾	3
	対談「スティーブ・ジョブズと北アメリカの禅」	7
	講演会アンケートより	10
	特別寄稿「現代のアメリカで禅がなぜ脚光を浴びているのか」	
	庭園デザイナー／多摩美術大学環境デザイン学科教授／ブリティッシュ・コロンビア大学特別教授 枡野 俊明	11
	総会資料「2011年度事業報告・決算報告」	12
	「2012年度事業計画・予算報告」	13
▶海外レポート		
	「第8回 曹洞宗ハワイ・北アメリカ檀信徒大会参加報告」	14
▶国内レポート		
	「東日本大震災復興萬燈供養会を厳修して」……曹洞宗神奈川県青年同志会 実行委員長 玄野 善識	18
▶SZI express	会費納入者・賛助金納入者名簿／動静報告／編集後記／「塔婆供養で植林支援」のご報告／LA 禅宗寺90周年境内美化基金について	19
▶SZI 両大本山ワークショップのおしらせ		20